

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年3月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694500051
法人名	医療法人 健育会
事業所名	グループホーム みんなの家
所在地	鹿児島県姶良市西餅田139番地4 (電話) 0995-66-2541
自己評価作成日	平成29年1月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成29年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・私たちは家庭的な温もりの中で、一人ひとりの有する出来る力を大切にしながら能力に応じた役割(園芸・調理・編み物)等を持ち続けられるように支援します。

・あなたの思いを聴きながら、あなたらしくゆっくり過ごせる時間を持ち続ける事が出来るように、寄り添います。

・季節を感じて頂けるように、一緒に花を植え、野菜作りや収穫も楽しんで頂いています。またホールの装飾や季節に応じた壁面製作も一緒に取り組んでいます。

・母体が医療法人のため、日常の健康管理や緊急事態が生じた時は主治医との連携も図りやすく、ご家族にも安心を得ています。

・これからも、地域との関わりを深め、交流を持つ事で地域の一員としての、人との関係が途切れないように支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当ホームは母体医療機関が隣接しており、毎日のように医師が訪問し健康管理ができています。緊急時の対応体制も整っている。

・地域行事に積極的に参加したり、事業所にボランティアの三味線などの演奏で利用者は楽しんでいる。職員はいきいきサロンで体操や認知症予防について話しをする等、地域との良好な関係が構築できている。

・バイキングや焼肉パーティーを中庭でしたり、行事食なども毎回、工夫して喜ばれている。弁当持参で桜島へ見物に行ったり、誕生会は個々に好きなものを作り、食べる楽しみを味わっている。

・災害に対して、日頃から対策を考え、災害が起こっても慌てず冷静に対応できるように日常的に訓練をしている。

・職員育成に力を入れており、職員間の関係も良好で職員は質の向上を目指している。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は、開設時に職員で話し合いを持ち定めている。施設内に掲示し、朝夕の申し送り時に唱和を行い職員の意識づけと方向性を保っている。	理念は開設当時に全職員で地域密着型サービスの意義を踏まえたものを作成している。玄関やホールを含め4箇所に掲示しパンフレットにも掲載している。朝夕唱和して職員の意識づけを行っている。理念を基に毎月の努力目標に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との親睦を深め、交流を持つ事が出来るために、自治会に加入している。近隣を散歩する事で挨拶を交わしたり、立ち話しを行ったり地域住民との関わりを深めるようにしている	自治会に加入し地域の行事に参加したり、三味線や大正琴・アコーディオンのボランティアも受け入れて地域と親しく交流をしている。いきいきサロンに出向いて体操を教えたり、認知症予防について話しをしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	職員が地域のサロンの会に参加し、認知症の勉強会や高齢者向けの体操を行って認知症ケアの理解を高めている。要望に応じ、キャリア教育支援等の研修生を受け入れ、学びの場を提供している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員会は、二ヶ月に一回年6回開催している。グループホームの運営等報告を行い理解を得ている。地域で行われる福祉活動の情報を得たり、また参加者の希望による勉強会(認知症について・GHにおける事故対策)等も行っている	運営推進会議は定期的に行われ、事業所の行事や現況報告・利用者の状況・ヒヤリハット・外部評価の結果報告等を行い、意見交換も活発に行われている。認知症予防の勉強会もしている。避難訓練の話題もでて、災害に対応できるように話し合っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者に運営推進委員会出席を依頼し、介護現場の実情や取り組み等を伝え、相談や助言を得る機会を作っている。また、サービス向上を図るために市主催の研修会にも、参加するようにしている	市担当者とは窓口に出かけていき相談したり、電話で意見を聞く等、情報の共有ができています。運営推進会議にも出席して、現場の状況を認識してもらっている。市主催の研修会に積極的に参加している。管理者は始良伊佐グループホーム会の支部長も引き受け協力関係にある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束についての勉強会を行っている。職員も身体拘束による被害(身体的・精神的・社会的)を理解しており、言葉をさえぎったり行動の抑制等が無いようにしている。また家族に理解を求め、安全面と離脱防止のため玄関には、必要に応じ施錠を行っている	定期的に身体拘束廃止委員会を開催し、事例を出して勉強会を開催している。気になる言葉を職員で注意しあったり、やさしい言葉かけをするようにしている。自分に置き換えてのケアを考え、職員からの気づき観察が多く出されている。玄関の施錠はできる限り開放している。帰宅願望を強く訴えられる利用者に対しては、気分転換を試みるなど工夫も行っているが、その日の状況により安全面も配慮し必要に応じた施錠も行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内や施設内勉強会を定期的に行い、高齢者虐待がもたらす弊害も理解してもらっている。職員がストレスを抱えない働きやすい職場の環境づくりにも、配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的に施設内でも権利擁護に関する制度の勉強会を実地し、個々に対する必要性や理解を深めるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書・重要事項説明書は、利用者や家族に解かり易く説明し、質問等にもくわしく説明し理解して頂き署名・捺印を貰っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	担当者会議・面会時・行事への参加等で家族と面談の機会を多く持つように心がけている。また、家族からの意見や要望が出しやすい雰囲気づくりにも努めている。 出された意見や要望は、ミーティング・勉強会で職員間で共有し対応している。	利用者からは暮らしの中で意見を聞き要望を把握している。家族からは、面会時や行事の参加時に意見を聞いている。出された意見はミーティングや職員会議で話し合い、運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常的な会話の中で職員と話す機会を多く持ち、相談しやすい関係作りに努めている。代表者と管理者の話し合いの機会も多く持たれ、職員の意見や要望も取り入れられ運営に反映している。	職員の意見や要望を「職員の希望・訴えノート」に記録して、必要時、面談をしたり声かけをして、いつでも相談できるような環境作りをしている。日常的に意見は出やすく個人的にも相談事は即聞いて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は、職員の努力や勤務状況を十分に把握しており、職員が働きやすい環境面・労働時間や休み希望を取り入れるように配慮している。		
13		○地域資源との協働 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や法人内研修の参加、施設内で行われる月1回の勉強会で知識を得られるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良伊佐GH協議会に加盟し、研修の参加や同業者との交流を持ちながら意見交換も行う事ができ、職員の意識づけやサービスの向上に役立てている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○急変や事故発生時の備え サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族との面談を行ったりし、信頼関係を築くようにしている。また、生活歴・状況を伺い、出来る限り生活に沿った寄り添うケアを実践し、ホームでの生活に慣れていただくよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人と家族との関係を理解した上で家族の話をしっかり受け止め、双方それぞれの不安がない関係作りを心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族とそれぞれ面談を行い、現時点で今何が一番必要とされているかを汲み取りながら必要とされるサービス内容のプラン実施を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできること（野菜作り、料理等）を見極め、それぞれの役割や出来る事の喜びを味わえるように努力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会、ホーム内での行事等には家族に声掛けを行い、一緒の時間が持て、家族の一員であることを本人に理解して頂き、絆を深める事が出来るように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの友人、知人の面会は、本人の了解を得て行い、関係の継続を支援している。また、家族の協力を得ながら自宅に外泊、外食や買い物等の支援も行っている。要望に応じ行きつけの美容院の送迎もしている。	馴染みの関係がとぎれないようにしている。職員と共に美容室に行ったり、家に帰りたいとの要望に対応したり、馴染みの店に買い物に行ったり、サロンに行く等、個々に対応している。家族の協力のもと墓参りや外出・自宅に帰る・美容院・信仰で出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知度や性格を配慮した上で席を定め、利用者同士が穏やかに過ごせるように努めている。また、共同で行えるレクや生活作業に関わることでお互いに支え合える関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為に、一時支援から外れる本人を見舞ったり、家族との連絡を取りながら、退院後のフォローを続けた。退所されたご家族も継続的に訪来して下さり、相談等にも応じている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別にコミュニケーションを図ることを大切にしている(カンファレンス・入浴・散歩等) 本人の訴え・対応ノートを用い職員間で共有し、本人の思いに近づくようにしている。	日常の会話の中から思いや意向を把握している。本人の訴えと対応を記録し職員間で共有している。本人の思いを大切にしている。夜勤の時や散歩の時なども会話がはずみ、楽しく話されている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人・家族から聴き得た生活歴や日常会話の中から情報を拾い、その人らしい暮らしが提供できるように全職員が共有している。(医療機関・美容院・スーパー等)			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通じて本人の身体状態を把握し出来る事を支援している。洗濯干し・畳み、料理の下ごしらえ、掃除・園芸等個々が得意とすることや役割を見出しケアにつなげている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、医師・医連Nsの意見を参考に職員で毎月モニタリングを行っている。本人やご家族の意見は、話しやすい状況を提供し集め、プランを作成。また、その時の状況に応じた支援が行えるようにしている。	本人や家族から情報を聞き、課題分析を行い介護計画を作成している。本人・家族・医師、医療連携ナースの意見を参考に毎月モニタリングを行っている。現状に変化が生じた場合はその都度計画を変更している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の状態変化に伴う不穏等の対応は、利用者要望・訴えノートを設け記録に残し、後のケアにつなげている。また申し送りや介護日誌を活用し利用者の状態把握や共有した介護計画の実践見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族のニーズに沿った通院介助・外泊・買い物等の要望支援。また、往診・医療連携等柔軟な支援やサービス提供に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の立会いの訓練や勉強会歌、踊りのボランティアの受け入れ、また馴染みのお店への利用等要望に応じ支援を行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援する。受診時には、健康面や心身の状態を伝え適切な医療が受けられるようにしている。また、かかりつけ医の往診、歯科往診・医連(1/w)等も行い利用者や家族の安心を得られるようにしている。	かかりつけ医は本人や家族の意向を聞き、受診の対応をしている。ほぼ毎日のように医師が訪問し、訪問歯科や医療連携体制も整っている。緊急時の24時間対応体制ができており、家族や本人の安心につながっている。専門の医療機関への受診は家族に依頼しているが、行けない場合は職員が対応し受診後、家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との契約による医療訪問をとっている。看護師は利用者様の異常時や特変時にはかかりつけ医に連絡し適切な診療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、書面で必要な情報を提供して、入院中の見舞いを繰り返し状態の把握や情報を得たりし、退院後の生活支援がスムーズに出来るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に重度化や終末期に向けた対応については、事業所の方針を説明し家族の意向も確認の下同意を得ている。利用者の病気の状態や対応については、医師、家族の意見を尊重した話し合いで治療の方向性を定めている。	入所時に重度化や終末期に向けた方針を説明し、同意をもらっている。食事が口から摂取できなくなった時など必要に合わせ、家族・主治医・関係者で話し合いがもたれている。また、できる限り本人・家族の意見を尊重した支援や最後まで適切なケアに向けて取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救命救急の研修や事故発生時の対応は社内研修でも定期的に行っている。今後も必要に応じ外部研修や勉強会を実施していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、昼夜想定避難訓練や講話を定期的に行っている。 日々の業務の中でも、もしもの事態に備えて職員の意識づけもされている。隣接された法人内の研修等で、災害(地震・水害・津波)に向けた勉強会も行い災害時の協力体制もできている。 災害時の水・食料も備蓄されている	年2回消防署立会いのもと、昼夜想定避難訓練や自主訓練を行っている。地域の協力避難の際の見守りをしてもらったり、緊急通報システムの中に登録されている。災害時の水や米・インスタント食品等、3日分位の備蓄がある。防災器具も備えている。避難時のネームプレートも個々に作っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションを図るときには、声掛けは目線を合わせ、会話は笑顔で、声のトーンは利用者の聴力に合わせてを心がけている。入浴準備等の入室の際には、声掛け一緒に行っている。実習生や関係者にも言葉かけや接し方への配慮も伝えるようにしている。	尊厳とプライバシーを大切にしたいマニュアルがあり、定期的に勉強会を行っている。部屋へ入るときなど、声かけとノックを心がけている。言葉かけは目線を合わせて行っている。職員間で気づいた時は注意し合うようにしている。入浴や排泄時にも配慮し、実習生や関係者にも接し方の配慮について話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難聴の為、本人の訴えや職員の思いが伝わらない事に対しとはノートやホワイトボードを使用しコミュニケーションの手段とし、本人が自己決定が出来るように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日を本人のペース(読書・テレビ観賞・携帯電話)が持てる自由な時間を支援している。また共通の時間を持つときには、本人の意向を確認し自由に生活出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	希望に応じ行きつけの衣料品店への買い物支援や美容院に出かけたり、必要に応じ訪問理美容サービスを行っている。行事等の催し物時は化粧をして楽しんで頂いている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外出支援(花見・桜島見学)に出かけ、ホーム外で食事を行う事で利用者の気分転換を図っている。利用者が出来る料理(そば打ち・高菜漬け)等の料理教室を行い腕を振るってもらったりと、食事が楽しく出来るようにしている。お誕生日の献立は、本人やご家族に尋ね好物を提供している。敬老会や母の日の大イベントの昼食は、バイキング料理を行い、本人が選べる楽しみも味わって頂いている。	バイキングや焼肉パーティーを中庭でしたり、行事食なども毎回、工夫して喜ばれている。利用者はテーブル拭きや下膳の茶碗集めなど、手伝っている。つわやタケノコは利用者が皮むきをしたり、漬物を一緒に漬けて楽しんでいる。弁当持参で桜島へ見物に行ったり、誕生会は個々に好きなものを作り、食べる楽しみを味わっている。外食は家族と行ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量、食事量を記録に残し、一人ひとりにあった食事形態と栄養状態に応じた食事を提供している。月初めに体重測定を行い、増減にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に、声掛け見守り・一部介助など本人の力に応じて行なっている。拒否があった場合は、時間を置いての声掛けなどの工夫もしている。義歯は夜間に預かり、洗浄し清潔をた保っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターン(チェック表)や時間帯での声掛け誘導を行っている。トイレでの排泄を促し、失敗や下着隠しに対してもさりげなく声掛けて精神面への配慮も行ってる。昼間はオムツからリハパン使用に変える事で快適に過ごせるような自立支援につなげている。	排泄タイミングを排泄記録やしぐさ・表情などから察知して、トイレ誘導をしている。オムツからリハビリパンツや布パンツへ改善した事例がある。排泄の自立支援を本人や家族の意思を確認して取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として、野菜をしっかり摂取出来るような献立にしている。水分もチェック表を確認し、摂取量が少ない時には、声掛けや好物の飲み物で確保してもらっている。排便チェック表で、便秘が続いている場合は、牛乳やヨーグルトを勧めたり腹部マッサージを施行している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴がリラックスした気持ちの良い楽しい時間だということを職員も理解し、歌好きの方とは一緒に歌い、会話を好まれる時にはゆっくりとコミュニケーションを図り、個々に応じた入浴を楽しむ場になるように工夫している。季節に合わせて、春は菖蒲湯・秋にはゆず湯を用意し、昔からの風習も受け継いでいる。安心して、入浴してもらう為に前後に水分補給を行っている	入浴は本人が希望すれば毎日でも支援している。夏はシャワー浴・冬は浴槽に入り、季節によってゆず湯を楽しむこともある。足浴も行っている。浴室や着脱室などの温度なども快適になるように配慮している。入浴時に心を開きいろいろ話ができるので、その人に合わせた入浴の仕方をしている。何をして欲しいのか、恥ずかしい気持ちなどを汲み取り、コミュニケーションをはかりながら、入浴支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	心地よい休息をとって頂く為 に音・室温・温度調整や明るさ に気をつけている。入床までは 会話やテレビ観賞・本読み等、 自由にして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる	処方された個々の薬の整理・仕 分や変更があった時は、申し送 り全職員が把握できるようにし ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活暦や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	個々に応じ、洗濯干し・畳みや 料理の下ごしらえ・園芸・手芸 などの役割を持って頂いたり、 生活を楽しめるように、お茶の 時間や談話・レクリエーション の内容にも配慮している。 また個別に買い物や歩行訓練を 兼ねた散歩も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう に支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	日光浴や地域周辺の散歩を行い 季節、景色、隣人との会話を 楽しめるように支援している。 お墓参り・温泉や買い物などの 外出支援の行っている。施設行 事として初詣・花見・ショッピ ング等、体調、安全面を配慮し た上で毎年計画されている。	好天の時は日光浴や近所を散歩 して気分転換を行っている。毎 年行事計画を立てて初もうでや 花見・芝桜を見に行ったり、買 い物などを楽しんでいる。重富 の海岸にも出かけている。家族 と一緒に温泉に行ったり、外食 や墓参り・温泉・美容院等、協 力してもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時に、家族の了解を得て必要に応じお金を預かっている。本人が管理が出来る方は財布を所持し要望に応じ買い物支援を行い、家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の要望に応じて、いつでも電話がかけられるように体制作りをしている。また、贈り物のお礼の際は、本人にも電話でお礼をしていただくようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆっくりと休めるソファを設置し明るく、清潔で異臭のない空間作りや音、明るさ、湿度にも気をつけている。ホールには季節の花を飾り、また四季の移り変わりを感じる壁面を入居者と一緒に作っている。台所からは、食事を作っている光景や音・匂いが伝わり生活感のある空間となるように工夫している。	共用空間は光が差し込み明るくホッとする空間である。エアコンや空気清浄機・加湿器が設置されている。中庭に面しており明るい。季節の花を飾り、季節ごとの壁面飾りは利用者と一緒にしている。台所は対面式で利用者と一緒に話しながら行っている。ソファが置かれテレビを見ながらゆっくり過ごせるスペースになっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットの間に光庭があり、窓越しにひなたぼっこをしたり、季節の花や野菜を見たりして、空間を楽しんでいる。また、ホールでは、雑誌を読んだり、ソファにてテレビを見たりして一人での時間をゆっくり寛げるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	目が届く場所に着慣れた洋服を掛け、化粧品・使い慣れた家具や家族写真など、なじみの品物を持ち込んで頂き、本人の生活パターンに応じた居室作りを行っている。また、部屋の装飾や家具の位置等にも気を配り、家族等の面会時にもゆっくりと寛げる清潔感のある居心地の良い居室作りを工夫している。	居室の入り口が広く、ベッドやタンスなどが設置されている。自宅で使い馴れた小物が持ち込まれ、個性的な部屋の雰囲気になっている。利用者の趣味や好みも活かされて利用者らしさの環境作りになっている。花や写真を飾り、位牌をもってきている人もあり、家族と一緒に作り上げた部屋は、自分好みの居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は安心して移動ができるように手すりを設置し、また車椅子の自力走行は、安全面に配慮した導線や環境整備に努めている。トイレ・居室は目印で本人が場所の確認が出来るように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない